

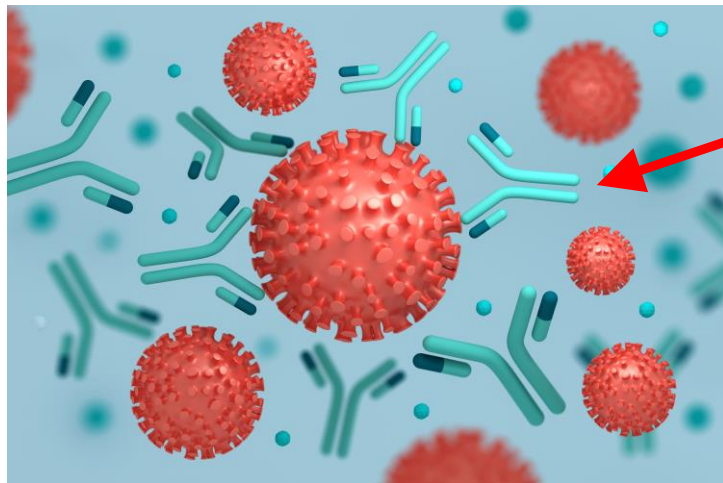
新型コロナウイルスに対する中和抗体薬治療 (抗体カクテル療法) の基礎知識

藤田医科大学病院
救急総合内科
岩田充永

抗体カクテルは、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)感染症に対する治療薬です

抗体カクテル(ロナプリーブ®)は、「カシリビマブ」と「イムデビマブ」という2種類の抗体※を混ぜ合わせて使用します。

ウイルス表面に2種類の抗体が結合することで、ウイルスの増殖を抑制します。



抗体



※抗体＝新型コロナウイルスの表面にある抗原(標的)に結合して、体内から除去を促す物質

ソトロビマブ (ゼビュディ®)は1種類の抗体で、同様の効果を発揮する治療薬です

投薬方法・時間

使用回数

1回の点滴静脈注射を行い、終了です。

使用時間

約30分かけて点滴します。



治療対象となる患者さん

酸素投与を必要とせず、以下の重症化リスク因子を持つ患者さんが対象となります

新型コロナウイルス感染症の重症化リスク

- 50歳以上
- 肥満 (BMI 30kg/m² 以上)
- 心血管疾患 (高血圧を含む)
- 慢性肺疾患 (喘息を含む)
- 1型または2型糖尿病の方
- 慢性腎障害 (透析患者さんを含む)
- 慢性肝疾患
- 免疫抑制状態を考えられる方 (がん治療、骨髄または臓器移植、免疫不全、コントロール不良のHIV、AIDs、鎌状赤血球貧血、サラセミア、免疫抑制剤の長期投与)



注意を要する副作用① 「アナフィラキシー」

薬に対してからだの免疫機能が過剰に反応することで、全身に起こる急性アレルギー反応がまれに現れることがあります。

- 全身のかゆみ
- じんま疹
- 皮膚の赤み
- ふらつき
- 吐き気・嘔吐
- 息苦しい
- 冷汗が出る
- めまい
- 顔面蒼白そうはく
- 手足が冷たくなる など

体調に異常を感じたらナースコールにてお知らせください。



注意を要する副作用②

「インフュージョンリアクション」

ロナプリーブを含む「モノクローナル抗体製剤」と呼ばれる種類の薬剤を点滴した時に起こることがある体の反応で、過敏症やアレルギーのような症状が現れます。

- 発熱
- 悪寒
- 吐き気
- 不整脈
- 胸痛
- 胸の不愉快
- 力が入らない
- 頭痛
- じんま疹
- 全身のかゆみ
- 筋痛
- 喉の痛み など

体調に異常を感じたらナースコールにてお知らせください。



ロナプリーブ投与後の注意点①

新型コロナウイルス感染症の重症化を防ぐ薬剤であり、投与後すぐに治癒するわけではありません。

- ロナプリーブは新型コロナウイルスに対する特効薬ではありません。
- 全ての患者さんの重症化を防ぐわけではありません。
- ロナプリーブが投与された後も、保健所の指示に従い自宅などでの療養を続けてください。
- 息が苦しいなど症状が悪化した場合はすぐに保健所に連絡してください。

ロナプリーブ投与後の注意点②

ロナプリーブ投与後も隔離解除に要する期間は変わりません。指定された期間まで自宅療養を続けてください。

- ロナプリーブが投与されても新型コロナウイルスは排出され続け、他人に感染させるリスクは変わりません。
- 隔離解除期間はロナプリーブを投与していない患者さんと同様です。
- ロナプリーブが投与されたからといって、指定された隔離解除期間より前に外出することは決してしないでください。

ロナプリーブ投与後の注意点③

ロナプリーブ投与後もワクチンは接種してください。

- 新型コロナウイルスに感染した患者さん、ロナプリーブを投与された患者さんのどちらも、ワクチンは接種してください。
- ロナプリーブが体内にある間はワクチンの効果が下がることが考えられます。
- ロナプリーブ投与後の新型コロナワクチンは、できれば90日程度あけて接種することをお勧めします。